



ハイナイト祈祷課題 2026年2月号

1. 日常化していく反ユダヤ主義を覚えて

2025年1月から11月末までに、世界各地で報告された反ユダヤ的事件は6300件を超えるました。この数字は、ユダヤ人への差別や憎しみが当たり前となっている社会の現状を表していると、専門家は指摘します。

その背景にあるのが、言葉の濫用です。「ジェノサイド」や「戦争犯罪」といった言葉は、本来、慎重な検証が必要です。しかし、十分な証拠を伴わないまま、イスラエルを非難するためのレッテルとして多用されるようになりました。その結果、イスラエル=「ジェノサイド」「戦争犯罪」といったイメージが独り歩きし、イスラエルは常に有罪の烙印が押されるようになりました。一方で、ハマスなどのテロ組織が民間人を殺害している責任は、問われない傾向があります。

その一因として、ガザで活動してきた国連機関やNGO、メディアが、ハマスの発信した情報を、そのまま世界へ流してきたことが挙げられます。歪められた情報であるにもかかわらず、国際世論に与えた影響は計り知れません。

反ユダヤ主義は、イスラム過激派の中だけに見られるものではありません。正義や人権を語りながら、無意識に反ユダヤ的な主張を広めている例も見られます。そうした反ユダヤ的な発言は、過激化しやすく、注目を生み、時には称賛され、正

当化されます。こうして反ユダヤ主義が社会に浸透し、ユダヤ人を標的にした暴力事件が起こりうる土壤ができてしまします。

実際、2025年12月、オーストラリア・シドニーで、ユダヤ人コミュニティーを標的にしたテロ事件が起こってしまいました。ユダヤの祝祭ハヌカで、約千人が集まっていたイベントが銃撃され、15人が殺害されました。被害者たちは、中東で続く紛争とは全く関係のない人たちです。ただユダヤ人であるという理由だけで殺されたことは、世界のユダヤ社会に衝撃を与えました。

反ユダヤ主義は、歴史を越えて存在し続け、社会をむしばんでいきます。私たちは、どのような状況にあっても、揺るぐことなくイスラエルをとりなし祈り続けていきましょう。



殺害された在米イスラエル大使館員(ワシントン・2025年5月)
Photo: Israel Ministry of Foreign Affairs

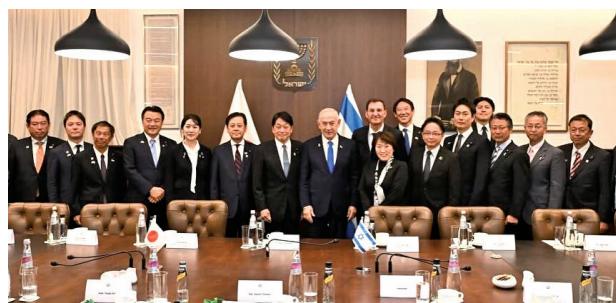
あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。(申命14:2)

- ①ユダヤ人に対する憎しみや事実に基づかない主張が受け入れられている風潮が、変えていくように。
- ②神がイスラエルとユダヤ人を愛しておられることを、聖書の真理に基づいて悟り、立ち上がる信仰者たちが起こしていくように。
- ③日常化していく反ユダヤ主義から、世界各地のユダヤ人が守られるように。

2. 激動の世界における日本の外交を覚えて

世界情勢が激変する中、日本も難しい外交を迫られています。中国は、日本に強硬な政策を次々と打ち出してきました。まず、日本への観光や留学を中止するよう国民に要求。さらに、中国軍機による自衛隊機へのレーダー照射、日本への輸出規制など、中国の揺さぶりは続いています。

日本の隣国の状況も楽観視できません。ロシアはウクライナを侵略し、北朝鮮は弾道ミサイルの発射を続け、中国は昨年末、台湾を包囲する大規



1月、過去最大規模の超党派国會議員団(15人)がイスラエルを訪問
Photo: Israel Government Press Office

模な軍事演習を強行しました。

有事がいつ発生してもおかしくない今、日本政府はイスラエルとの防衛協力を進めています。1月、過去最高規模の15人からなる超党派の国会議員団がイスラエルを訪問。防衛産業などを視察した他、ネタニヤフ首相らと会談しました。この報道に対し、日本のネット上では「大量虐殺を今

まさに実行している政府」など、イスラエルを批判する声が後を絶ちません。

日本が、イスラエルを含む諸外国と良好な関係を築くことは大変重要です。日本のリーダーたちに外交の知恵が与えられるよう、祈りましょう。

そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。(I テモテ2:1)

- ①難しい情勢の中で外交のかじ取りをする日本の政府関係者に、主のあわれみと知恵が与えられるように。
- ②イスラエルを批判する声が高まる中でも、日本がイスラエルと良好な関係を築けるように。
- ③日本が有事に備え、適切な判断を持って国土と国民を守れるように。

3. ゼラス・ジャパンを覚えて

「神の愛でイスラエルを愛する心を、若い世代に継承したい」。その願いのもと、2021年、ゼラス・ジャパンが始まりました。ゼラス・ジャパンは、日本で、若い信仰者たちが聖書とイスラエルを学ぶ1年間のプログラムです。これまで18歳～30歳の34名が全国から参加しました。

多くの参加者がこう証ししています。「イスラエルについて学ぶプログラムと思って参加したけれど、それ以上に神さまとの関係が変えられた」

ゼラス・ジャパンでは、知識を超えて神さまを深く知り、神の愛で教会とイスラエルを愛することを学びます。共に学んだ仲間たちは、その後も続く信仰の友となっていきます。皆様の祈りによって、参加者たちが神さまに変えられ、信仰生活を力強く歩んでいます。

ゼラス・ジャパンは、1年の準備期間を経て、4月から第4期が再開します。4期生は7名。神の愛で教会とイスラエルを愛し、地の塩、世の光として仕える人々が日本で育まれるよう、ゼラス・ジャパンのためにお祈りください。



共に学んだ仲間たちは、学びの後も信仰の友となっていきます

若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷺のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。(イザヤ40:30～31)

- ①4期生7名が1年のプログラムを通して、神さまとの関係が豊かにされるように。
- ②これまでの卒業生たちが、続けて神の愛で教会とイスラエルを愛し、祝福の源として用いられていくように。
- ③神を愛し、イスラエルを愛する心が、日本の若い世代に継承されていくように。

「ハイナイトソング」
視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」

祈りの第一声として
祈祷課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P.Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)
TEL:03-5969-9656 FAX:03-5969-9657 URL: www.bfpj.org
ハイナイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org